

科目名称	運動療法学実習
授業コード	AD275
英語名称	Exercise Therapy Practice
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	渡辺 長, 五味 雅大, 毛利 元樹, 青柳 達也
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	運動療法は、理学療法士が対象者の治療・支援を行うために用いる主要な手段の一つである。そのため、理学療法学のコアカリキュラムの専門領域となる運動療法の理論的解釈を深め、理学療法の基本的な知識、技術、態度、実践力の体得を目指す。さらに、疾病の急性期から終末期までの全病期のリハビリテーションに対する理学療法介入の基礎技術となる運動療法を身に付けることで、専門職連携に求められる自らの役割や専門性について理解する。理学療法士としての臨床経験のある教員が、実務経験を活かして講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指す上で必要な運動療法の理論的な解釈、基本的知識、技術、実践力の体得を目指すため、理学療法士として臨床経験のある教員が、病院や施設での実務経験を活かしてそれぞれの専門分野を分担して講義する。 ・渡辺長：理学療法士（総合病院勤務経験） ・五味雅大：理学療法士（総合病院・訪問リハビリテーション勤務経験） ・青柳達也：理学療法士（総合病院・訪問リハビリテーション勤務経験） ・毛利元樹：理学療法士（総合病院勤務）
到達目標	カリキュラムポリシーが掲げる「基本的な理学療法の治療法や障がいに対する専門的な理学療法」を身に付けるため以下の目標を設定する。 【科目特有の知識・技術についての到達目標】 運動療法の理論・方法論を具体的に説明できる。 運動療法の基盤である基本動作の介助、誘導も含めた確かな運動療法基礎技術を培う。 【汎用能力としての学士力についての到達目標】 運動療法学の臨床基礎とその実践に触れ、将来、課題発見力を持つように努める。
計画・内容	1) 運動療法総論と関節可動域技術演習（1）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 2) 関節可動域技術演習（2）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 3) 関節可動域技術演習（3）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 4) 筋力増強技術演習（1）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 5) 筋力増強技術演習（2）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 6) 筋力増強技術演習（3）担当教員：青柳、五味、渡辺（理学療法士） 7) 基本動作演習：寝返り、起き上がり、立ちあがり（1）担当教員：五味、青柳、渡辺（理学療法士） 8) 基本動作演習：寝返り、起き上がり、立ちあがり（2）担当教員：五味、青柳、渡辺（理学療法士） 9) 基本動作演習：寝返り、起き上がり、立ちあがり（3）担当教員：五味、青柳、渡辺（理学療法士） 10) 基本動作演習：寝返り、起き上がり、立ちあがり（3）担当教員：五味、渡辺、青柳（理学療法士） 11) バランス障害に対する運動療法（1）担当教員：五味、平賀、青柳（理学療法士） 12) バランス障害に対する運動療法（2）担当教員：五味、平賀、青柳（理学療法士）

計画・内容	13) 整形疾患リハビリテーション(1) 担当教員：毛利、五味、青柳、渡辺 (理学療法士) 14) 整形疾患リハビリテーション(2) 担当教員：毛利、五味、青柳、渡辺 (理学療法士) 15) 歩行・応用動作技術演習(1) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 16) 歩行・応用動作技術演習(2) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 17) 運動療法の計画と実践演習(3) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 18) 運動療法の計画と実践演習(4) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 19) 運動器疾患の運動療法(1) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 20) 運動器疾患の運動療法(2) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 21) 中枢神経系疾患の運動療法(1) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 22) 中枢神経系疾患の運動療法(2) 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士) 23) 運動療法学 まとめ 担当教員：渡辺、五味、青柳 (理学療法士)
授業の進め方	1) 各テーマについて演習形式で解説をする。 2) 指定教科書や配布する資料を参考にしながら、講義を進める。他に適宜ビデオや資料などを提示し、講義内容の理解を図る。
能動的な学びの実施	・学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。 ・グループ分けを行い、課題についてディスカッションを行う。
授業時間外の学修	・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと (各回 1 時間～2 時間) ・教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること。(合計 15 時間程度)
教科書・参考書	教科書：対馬栄輝編集 cross link理学療法学テキスト 運動療法学 参考書：石川齊、他編 図解理学療法技術ガイド 文光堂 市橋則明、他編 運動療法学 障害別アプローチの理論と実践 第2版 文光堂 石井慎一郎編 動作分析臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 メジカルビュー社
成績評価方法と基準	筆記試験 (講義の運動療法に関連する範囲から出題) (100%)
課題等に対するフィードバック	・学生からのコメントペーパーの内容をもとに授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	実技授業が主であるため必要に応じて直ちにTシャツ・短パンになれるように準備をしておくこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法 ・課題の総合点 (50%) と期末レポート (50%) 授業で提示する課題の総合点と期末レポートの成績により評価する。